

丹波篠山の宿：集落丸山

—空家古民家を生かした集落再生の仕組み—

兵庫県丹波の森協会・丹波の森研究所

横山 宜致

集落 丸山

総人口19人、5世帯

12軒のうち7軒が空家

市役所から車で7分



篠山市

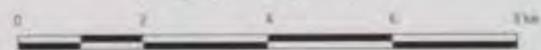
篠山市航空写真図



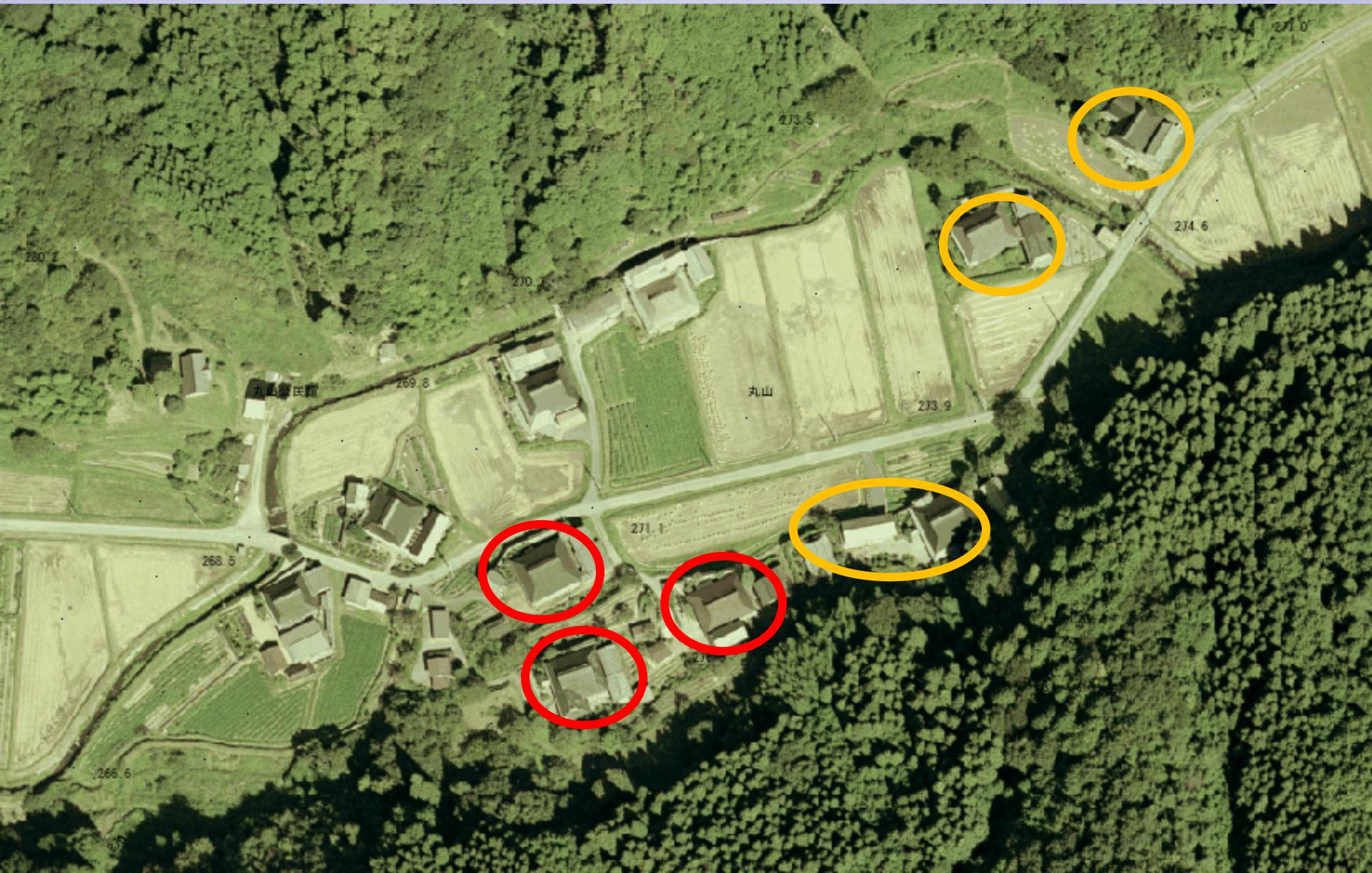
丸山



縮尺 1:25,000



撮影年月 平成17年9月 対面撮影 篠山
図製年月 平成17年3月 作業機関 株式会社



































① 出合いー丸山集落の認知

- 丹波地域のまちづくり関係者に周知されたのは**3年前**、兵庫県の古民家調査から始まる。
- もと、庄屋の邸宅が古民家の改修相談をした。
- 丹波県民局のまちづくり担当の知るところとなり、関係者で話題が上がり、**古民家だけでなく、集落景観**としても注目されるようになった。

②応募－「新たな公」のモデル事業

- H20年度国土交通省の“「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業”に篠山市丸山地区をモデルとした「ふるさと原風景再生マネジメント」事業で兵庫丹波の森協会（篠山分室）が応募。
- 全国357件応募のうち兵庫県では3件が選定され、丸山地区も無事選定を受けた。

③ 目的—「新たな公」による調査

- 応募の「ふるさと原風景再生マネージメント」事業は、丸山地区をモデルに住民参加に基づく

① 景観整備

② 空き家を活用した農家民泊の試行的運用

③ 農家民泊の開設イベントの計画づくり

を行い、

限界集落化しつつある谷奥集落の活性化を図ることを目的とする。

④集落丸山の現況①

- 12軒(11軒は茅葺)のうち7軒が空き家
- 棟の向きがそろった秀逸な集落景観
- 「20年前の風景が今も息づく」(農村の原風景)

- そびえる多紀連山の御嶽
- 篠山城下町の水源地
- 目に見える自然の豊かさ
- 発見！クリンソウの大群落



④集落丸山の現況②

- 総人口19人、5世帯
- 「集落は家族」の信頼コミュニティ
- そば処「ろあん」の存在
- 市役所から車で7分
- 集落に至る一本道(村中道)が近畿自然歩道
- 細い谷筋にふさわしくない大きな屋敷

ワークショップの開催

- 9/18WS ①地域の再点検
- 10/18WS②集落めぐり
- 10/18WS③魅力と問題点
- 11/18WS④将来ビジョン
- 12/22WS⑤修景整備の方向性、
- 1/22WS ⑥まとめ
- 3/2WS ⑦取り組み方針3/26報告会
- ○古民家調査10/29・10/30

魅力と問題点課題の整理

○強み		○弱み
<ul style="list-style-type: none">・自然の美しさ・クリンソウの群落（他にはない植物）・静けさ（自然の声）・調和のとれた集落（家並・屋並）景観・通り抜けできない地形（ドン詰まり）・忘れる喧噪や雑踏感（ゆったり、のんびり）・集落が家族であること・お米がうまい・都市住民の訪れるそば屋さんがある	<ul style="list-style-type: none">・鳥獣（虫）被害・日暮れ早く、日照時間短い・住民少ない—①様々な地域活動困難②緊急時の不安③環境が維持管理できない（農地や古民家等）・車がないと生活不便・携帯電話の電波難・丸山を知る人が少ない（知られていない）	
<ul style="list-style-type: none">・田舎暮らし（自然回帰）ブーム・食・農に関する関心の高まり・インターネット等の普及・自然の保護・団塊世代等のリタイヤ層の増加・丸山地区への関心の高まり・国、県レベルのツーリズム支援・国際観光の推進	<ul style="list-style-type: none">・他地域でも地域の活性化重視・都市住民ニーズの個別化、複雑化・質（本物）に対する要求の高まり・低支出型交流の増加（直接経済効果の逡減）・自然的魅力資源（川・農地・里山）の荒廃・少子高齢化による担い手不足・三田・阪神間等への若者流出	
○機会		○脅威

学習会の開催－啓発の共有

○学習サロン

- ①12/14丸山の魅力・景観特性
- ②1/17古民家の特徴・再生
- ③2/8鳥獣保護対策とクリンソウ
- ④3/8空家利活用エリアマネジメント
- ⑤3/20農家民泊マネジメント戦略

○おもてなし講座

- ①2/24迎えもてなす心構えとエチケット
- ②3/5外国人観光客の対応について

Blue & White 加藤エイミーさん



日本の伝統文化を愛し全国各地を歩く。藍染 (Blue & White)の世界に魅せられ、東京麻布十番に日本のクラフト・テキスタイルを中心に扱う”Blue & White”を経営。

デザイナー 喜多俊之さん



AQUOS 2001- SHARP (Japan)

「どうしたら家庭用のテレビとして身近な存在になるのか」というテーマでデザインした。それまでの硬くて、冷たい、いわば無機質なデザインであった液晶テレビから、有機的に面とをつなぐ部分やディテールに表情をもちこんだ。世界で通用する新しいブランド製品として日本オリジナルを目指した。

地域外関係者や有識者の評価

	雰 囲 気	道・農 地	家 並 み
魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作りすぎていない今のまがが良い。 ・ くらしが息づいていること。 ・ 都会の喧騒さを忘れさせてくれる。 ・ 居心地の良さ。飽きることのない環境。 ・ 懐かしいふるさと感、原風景性を感じる ・ 携帯電話が届かないことを逆手に取って、ぼんやりと時を過ごさせよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 程よい谷筋に、程よい距離感。歩くのに最適。 ・ 谷奥へ続く一本道に風情がある。 ・ 畦、畦畔木、灰屋、石積み、カキノキ、栗林、井戸、釣瓶、祠、石碑、お堂、無人の野菜販売所、コンコンの木、ケヤキの大木...集落墓地、黒岡川、ため池。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茅葺屋根のどっしりとした存在感。 ・ 棟方向がそろっている。 ・ 大きな敷地のゆったり感。豊かさを感じさせる。 ・ 脇門とシイの木 ・ 朽ち果てそうな土壁、藁の質感、色合い、におい...
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進行的に作りすぎないこと ・ アノニマスに自然になじむ形で、 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の拡幅はしない。今のまがが良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真新しくしすぎないこと
視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 丸山の暮らしを前面に出す。過ごす時間を忘れさせよう。 ・ 古きものを活かして新しい視点で命を与えて、活用すること。古いものを活かしながら新しいものを創る ・ 時間とともに風化し、味わい深くなるエイジングの素材感を大切にする。 ・ 暮らしの疑似体験を提供すること。 		
提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見る、聞く、家具、味わう、触れるなど五感を通して堪能してもらえる空間づくり。 ・ さりげなく玄關脇に草花をいけ、縁側に手入れされた古民具を置き、生活に対する気配りを感じさせよう。 ・ 必要以上に土壁を覆わない。土壁の色合いやひび割れは、歴史と素材の個性を感じさせる。自然素材の風格を大切に。手間と時間をかけたものは、何度見ても飽きない。 ・ 冷え、凍み、錆び、枯れが、丸山の「美」の原点。時間の経過を伝える素材感を出す。 ・ 屋外との一体感を強調する⇒縁側文化の再生を 		
提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 四季のしつらえが、丸山の風景の意匠。 ・ 丸山は、篠山城下の水源地。命の源である。本質・本物への回帰、すなわち自然や生命への回帰をはかってはどうか。日本の暮らしの豊かさを失ったと思う人たちを温かく受け入れる空間であり続けて欲しい。 ・ 丸山を愛し、誇りを持ち、暮らしの魅力を伝える中で、地場の食を大切にし、空間を活かしたもてなしを創造するように。 ・ 丸山の価値を共有できる人達だけを受け入れれば十分。空間容量に見合った人数の受け入れ、無制限にはしないこと。 		

「新たな公」コミュニティ創生支援モデル事業(国土交通省)

- 地元説明取組協議
- 地域の見直しワークショップの実施(9/18、10/18、11/18、12/22、、1/22、3/2、3/26)町歩き10/18
- 空き家(古民家)調査(10/29・10/30)
- 空き家活用システム計画の提案
- 集落景観修景整備計画
- 農家民泊もてなし講座(2/24、3/5)
- 学習サロンの開催(12/14、1/17、2/8、3/8、3/20)

- フォーラムの開催(3/26)
- 成果の取りまとめ
 - ・これまでの調査計画の過程と成果を取りまとめる。報告書だけでなく、今後丸山地区で活用できる冊子や集落魅力マップ等の農家民泊や丸山地区のツール等に活用できる資料となるように工夫し、とりまとめを行う。













②空家活用(丸山地区「新たな公」から)

●集落が家族の維持体制づくり

- 地域に暮らす者同士が対等な立場で助け合う「共助」の仕組み
- 使われなくなった個人資産は地域の協働資産
- 非管理不動産を適切に管理する仕組み
- 他地域に住む財産相続者に代わる共助の体制—**地域**が主体となる

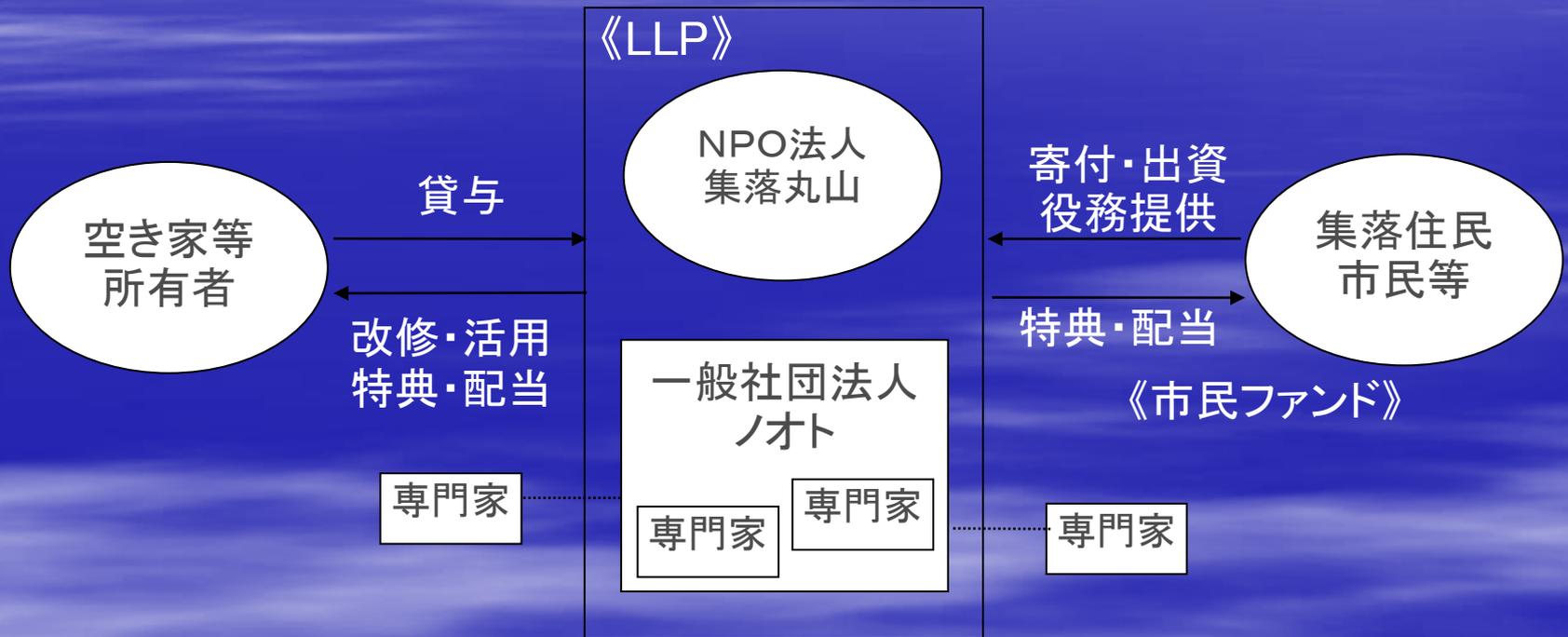
○(仮称)丸山地区**民家・農地維持管理機構**へ

③ 参画と協働の推進体制の構築

- 地域の活性化は土地と家屋等の不動産の流動性を高めること、 そのためには
- 公は事業決議と「信用を得る」参加支援
- 地域力で事業を推進する体制に
- 地域力は、住民と企業それに地域を熟知した専門家とそれを総合的に企画プロポーザルする法人や結社がコーディネイト
- 総合的(多角複合的)には複数の専門家がタッグを組み関わること

有限責任事業組合(LLP)

【集落トラストの事業スキーム】



集落マネージメントの仕組みづくり

- 所有者は、自らの空家、空地、農地等を10年間無償で貸与
- 集落住民等は、事業資金の一部、役務等を提供
- 集落マネージメントのためにNPO法人を設立し、滞在体験施設の運営、各種体験イベント等を実施
- 法人は、古民家再生、観光、食、イベント、広報等に関する専門家の派遣、市民ファンドの創設・運営、銀行からの資金調達等総合的に支援
- LLP(有限責任事業組合)を結成して、役割分担、費用負担、収益配分等を決める。

役割分担

	NPO法人集落丸山	一般社団法人ノオト
改修工事	—	○委託契約
資金調達	・市民ファンドへの出資	○補助金の取得 ○市民ファンドの設立、運営 ○銀行融資
運 営	○予約受付、接客サービス ○顧客情報管理 ○情報発信(インターネット等)	・イベント企画 ・デザイン管理 ・外国人観光客の誘致
収益配分	◎基金造成し、集落マネジメント事業に活用	

集落 丸山へどうぞお越しください

おしまい